

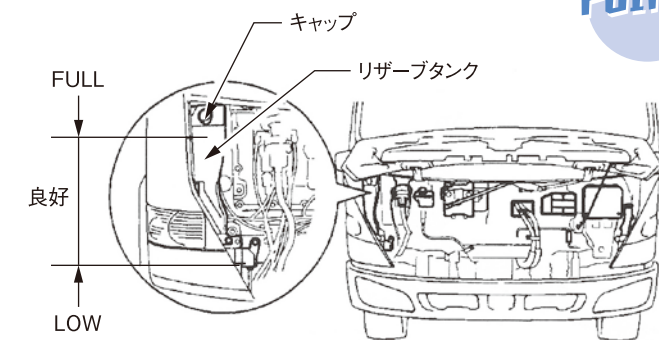
実践!トラック日常点検のポイント② 各種液量を点検しよう

あなたの日野車の健康管理は、日頃の点検が肝心です!このコーナーではトラック各部の日常点検を分かりやすくシリーズで紹介。第2回は、見落としがちな各種液量の点検方法を取り上げます。

ハンドルを握る前に忘れずに!

- 点検する時はパーキングブレーキを確実にかけ、チェンジレバーは『ニュートラル』の位置にし、タイヤに輪止めをかけてから行ってください。
- 点検時、異常があった場合は最寄りの日野整備工場で点検、整備を受けてからご使用ください。

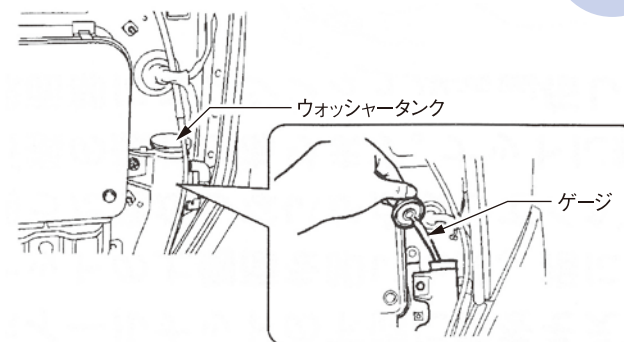
■冷却水の点検



POINT! 点検はエンジンの冷えている時に実施。リザーブタンクの水面が「FULL」と「LOW」の線の間にあれば良好です。

★「LOW」の線より下の場合、水漏れがないか各部の点検を行い、冷却水を「FULL」の位置まで補給してください。その時に冷却水の濃度の点検もお忘れなく。

■ウインドウワッシャー液量の点検

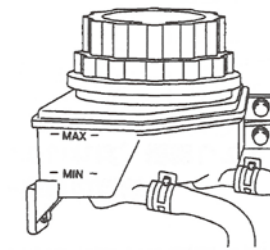


POINT! 点検し、液量が不足していれば規定の量まで補給してください。

警告!

高温時は絶対にラジエーターキャップを外さないでください。熱湯や蒸気が噴き出して、やけどをする恐れがあり危険です。また、フロントパネルも絶対に開けないでください。

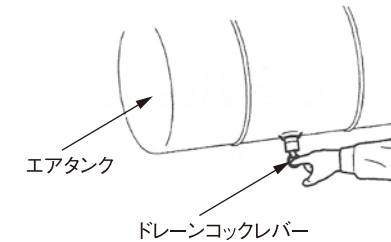
■ブレーキ液、クラッチ液量の点検



POINT! ・ブレーキリザーブタンク内の液量が規定の範囲内にあるか点検してください。
・クラッチリザーブタンク内の液量が規定の範囲内にあるか点検してください。
・不足している場合は補給してください

★液量の補給などは、取扱説明書を参考にさせていただき、最寄りの日野整備工場で点検、整備を受けてください。

■エアタンク内のたまり水の点検(大・中型車のみ)

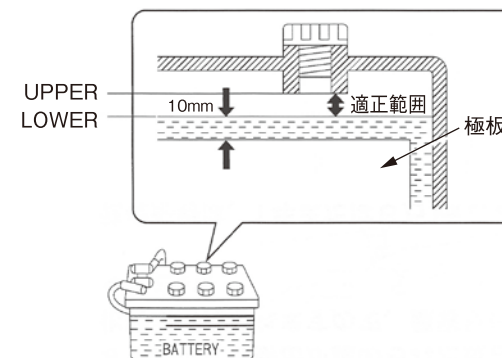


POINT! ・エアタンク下のドレーンコックレバーを引いて、タンク内に水がたまっていないかを点検してください

★ドレーンから水・オイルなどの排出が認められた場合は、エアドライヤー※内の乾燥剤の劣化などが考えられますので、最寄りの日野整備工場で点検、整備を受けてください。

※エアドライヤーの乾燥剤などは、1年または6万kmごとに必ず交換してください。

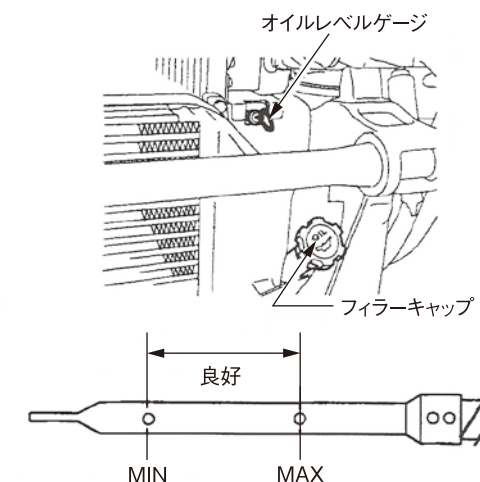
■バッテリー液の点検



POINT! ・図のように「UPPER」と「LOWER」の線の間に液面があれば良好です。

・「LOWER」の線より液量の位置が下がっていた場合、補充液または蒸留水を補給してください。

■エンジンオイル量の点検



POINT! ・図のオイルレベルゲージの切り欠き範囲内であれば良好です。

・不足している場合は、オイルフィルターキャップから補給してください。

注意!

・点検は平坦な場所で、エンジン始動前に行ってください。

・走行直後の場合には、30分以上経ってから測定してください。